

2018年 新年の干支 「戊戌（つちのえいぬ・ぼじゅつ）」に思う

果断を以って、陽気で維新・一新すべき年！

あすなる会顧問
株式会社 山西 代表取締役社長 西 垣 洋 一

新年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中はあすなる会の皆様には、格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

今、私たちの目の前には **2020年からの大変革期**という大きな時代のうねりが立ちはだかっています。国連では2030年までに**持続可能な開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals)** ー5つの分野 [People (人間)・Prosperity (繁栄)・Planet (地球)・Peace (平和)・Partnership (協働)]、17の目標への達成への取り組みを求めています。又日本では **Society5.0** の名の下、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の次に来る AI、IoT (Internet of Things)、ビッグデータ、ロボットなどの技術によって社会的課題を解決し、経済社会のあり方を一変させるイノベーションを起こす新たな社会である「**超スマート社会**」の実現が叫ばれています。

その入り口である本年の干支は、「**戊戌（つちのえいぬ・ぼじゅつ）**」になります。安岡正篤先生の「干支の活学」によれば、**戊**は「つちのえ」。茂に同じ。前年の十干「**丁**」に続き、陰陽煩雑する意とあります。又「**戌**」は干の「**戊**」と似ているが、中に陽気の「**一**」が蔵されており、枝葉末節を思い切って裁成すれば陽気を生かし維新・一新していくことが出来るとあります。本年の干支「**戊戌**」は、陽気（一）を見定め、その上で大いに果断する。枝葉果実を刈ることが重要となります。

本年の業界の見通しは、新設住宅着工数は2019年10月の消費増税前の駆け込み需要もあり、前年から微増の97万戸程度と予想する声が多く堅調のように思います。しかしながら昨年秋口から始まった輸入木材を中心とする資材価格の高騰が、資材不足の懸念とともに加速しかねない状況となっています。資材価格の値上げと職人不足などによる建築コストの増加を、どう住宅の販売価格へ転嫁するかが本年の課題となります。（右 2018年 年初の資材動向・市況 第3弾 参照）

他方本年は、消費増税後、オリンピック・パラリンピック後の新設住宅着工数減少時代を見据え、干支の教えにあるように「陽気（一）」を見定め、業界の次代の柱となる基幹づくりに向け準備の年となります。新築分野では、非住宅分野の木造化・木質化への開拓・取り組み（木造設計）・PRを強化、既設住宅分野では、不動産関連企業とも連携しつつインスペクション（既存住宅現況検査）を実施、中古・空き家・リフォーム住宅市場の活性化を図り「安心R住宅」など新たなビジネスモデルの構築を進め、新築と既設住宅を両輪に業界の発展を図らなければなりません。

更に本年は「働き方改革」の実践の年となります。「**働き方改革**」は、長時間労働の是正とか、同一労働同一賃金で紙面をにぎわしていますが、本来目指すのは企業の視点（経営の安定・持続的成長）から見て①生産性の向上 ②多様な人材活用（ダイバーシティ）③リスク対応力強化（BCP:事業継続計画）と、個人（社員）の視点（生活の安定や充実・自己実現）から見て④ワーク・ライフ・バランスの実現（仕事と生活の調和）の二つです。「働き方改革」は、この企業と個人の2つの視点を持って、「**主体的**」、「**能動的**」に学ぶ「**学び方改革**」と両輪で推し進めることが大切だと思います。

当社は、次の時代に向けても皆様と一緒に問題・課題に取り組み、お役立ちを図っていく所存であります。本年も皆様のファーストコールカンパニーとして変わらぬ愛顧の程宜しくお願い致します。最後になりますが、皆様のご健康と事業発展を心から祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

2018年1月吉日

2018年 年初の資材動向・市況 第3弾

株式会社 山西 購買本部

◎ 世界景気好転による世界同時木材価格高騰

米国の好景気や東アジア（中国）の経済発展による今回の輸入木材を中心とする資材価格高騰は、全世界に影響を及ぼし、現在は世界同時木材価格高騰の様相となっています。

<世界の木材産地市況>

- ① 北米(米国・カナダ)・米松・SPF高騰 ← 米松原木1,000ドル超 SPF スタッド 640ドル
・株価は1年間で19,000ドルから23,500ドルへ23.7%上昇
・住宅需要旺盛 新築着工130万戸（米国統計は集合住宅を1戸で計算）、中古流通550万戸と増加傾向だが、「人手不足」と「在庫不足」で住宅は販売頭打ち
・山火事による「供給減」とハリケーン復興による「需要増」
- ② 欧州 …… レッドウッド高騰 ← 米国向・中国向・欧州の需要増
・米国価格上昇で、生産品目を米国向けに転換
- ③ マレーシア …… ラワン合板高騰 ← ティンバープレミアム（税金）10倍増
・悪天候で原木出荷減、薄物・中厚欠品状態
- ④ ロシア …… エゾ・アカ松値上り ← 中国の活況とロシア国内産業育成
・中国の経済成長より中国向価格も上昇

◎ 日本での資材不足進行 → 更なる価格高騰へ

2017年秋口より始まった米国を起点とする需要増による資材価格の上昇は、米国・中国・欧州の回復による更なる需要の増加により、世界的な資材不足を伴う価格高騰の様相となっています。輸入資材は、「日本より世界の状況で左右され、お金を出さないと物が入ってこない時代」となっています。日本市場では、量の確保が困難な状況が続いており、今後資材不足が深刻化、更なる価格上昇圧力が強まっています。

◎ 我々はどう対処すべきか

- 1 国産材の使用を増やす
→ 現在木材自給率は30%強であるが、国内産地の供給体制が整わないため供給量の急増が困難
- 2 価格（値上がり）を受け入れる
→ ・「資材確保」するためには海外産地価格を受け入れるしかない。
・価格を受け入れた上で構造の見直しなどでコストダウンを検討する。
・コスト増加分は価格に転嫁せざるを得ない

2019年10月の消費税増税を控え、2018年は増税前の駆け込み需要も予想され、既に鋼材価格も1~3割の上昇となっているように、今後は、不足の懸念から、更なる需給逼迫により資材価格は騰勢を強めていきます。海外産地高が今後も続く中では、資材の確保のためには産地の値上げを受け入れざるを得ません。度重なるお願いになりますが、木材価格の価格改定への御理解と御協力をお願い申し上げます。当社としましては引き続き安定供給体制の維持を図り、納材のおくれなど起こさないよう努めてまいります。